

## 09 相手の立場を想像して（作文（中学生））

（ナレーター） 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、岡澤アキラが中学生の作文を一部省略して朗読します。

5

私はラグビーをしている。それだけ聞くと、ほとんどの人が私が女子であると考えはしないだろう。

「女子なのにラグビー？」

私は何度もこのような言われ方を経験したことがある。

10

これは、わざとではなくても差別につながる発想だと、私は思う。言っている人の表情や口調から、わざとでも悪意を持って言っているわけでもないことは分かる。だが、私は、このような言われ方をする度に小さな違和感を抱く。きっと、同じような経験をしたことがある人は少なくないはずだ。

15

言われ方によっては、ひどく傷ついてしまうこともある。それに対して、言った側も深く考えずに発言してしまった人、冗談で言ったつもりが相手に悪く聞こえてしまった人など様々な人がいる。つまり、同じ言葉一つでも、捉え方はそれぞれ異なるのだ。言葉の持つ力をしっかり理解し、その上で相手の立場を想像して言葉を発することが大切だ。

20

「ラグビー」と一言で言っても、「激しい」「危ない」と連想する人がいる一方、私にとってのラグビーは「楽しい」「成長できる」ものであり、どちらか片方の価値観だけでは物事を

25 捉とらえることはできない。「自分じぶんとは異なること価値観かちかんを認みとめること」。それが、差別さべつをなくす第一歩だいいっぽだと考かんがえる。

30 その上うえで、私わたしが大切たいせつにしていることは「正直しょうじきに言ういうことだ。ケンカになるかもしれないし、黙だまって我慢がまんすることもできないわけではない。しかし、様々さまざまな考かんがえ方かたの人ひとがいため、嫌いやなことを嫌いやと、嬉うれしかったことを嬉うれしかったと、言葉ことばにすることはとても大切たいせつなことだ。コミュニケーション

の力ちからは、とても大きい。日頃ひごろから小ちいさな意見いけんの交換こうかんをしているだけで、物ものの見方みかたや考かんがえ方かたは共有きょうゆうされる。他人たにんと共有きょうゆうし、視野しやが広ひろがれば、差別さべつは減へらせると思おもう。

35 「差別さべつをしない」ではなく、「差別さべつのない生活せいかつ」を目標めざして、一つひとつ一つひとつのコミュニケーションを大切たいせつにしていきたい。

40 (ナレーター) いかがでしたか。差別さべつをなくす鍵かぎは、日々ひびのコミュニケーションにあるということを、自分じぶんの経験けいけんから訴うったえ、私わたしたちに気付きづかせてくれる文章ぶんしょうでしたね。

(905文字)